



平成23年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年4月28日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ボルテージ

コード番号 3639 URL <http://www.voltage.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 津谷 祐司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 柴原 新吾

TEL 03-5475-8160

四半期報告書提出予定日 平成23年5月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年6月期第3四半期の業績(平成22年7月1日～平成23年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年6月期第3四半期	4,632	40.4	687	50.2	684	49.9	400	44.3
22年6月期第3四半期	3,299	—	458	—	456	—	277	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年6月期第3四半期	91.08	86.92
22年6月期第3四半期	220.02	—

(注)1. 平成21年6月期第3四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、平成22年6月期第3四半期の対前年同四半期増減率を記載していません。また、平成22年6月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、新株予約権の残高はありますが、当社株式は平成22年6月期第3四半期において非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載していません。

2. 平成22年12月31日を基準日として平成23年1月1日付で、1:3の株式分割を行っております。そのため、平成22年6月期第3四半期の1株当たり四半期純利益については、当該株式分割前の数値で表示しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年6月期第3四半期	2,863	1,874	65.4	425.00
22年6月期	2,283	1,486	65.1	1,018.02

(参考) 自己資本 23年6月期第3四半期 1,874百万円 22年6月期 1,486百万円

(注)平成22年12月31日を基準日として平成23年1月1日付で、1:3の株式分割を行っております。そのため、平成22年6月期の1株当たり純資産については、当該株式分割前の数値で表示しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年6月期	—	15.00	—	—	—
23年6月期(予想)	—	—	—	18.00	33.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 有

平成23年6月期第2四半期末の1株当たり配当金は上場記念配当であります。なお、当社は、平成22年12月31日を基準日として平成23年1月1日付で、1:3の株式分割を行っております。そのため、平成23年6月期第2四半期末の1株当たり配当金は、当該株式分割前の数値で記載しております。当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合、平成23年6月期第2四半期末の1株当たり配当金は5円00銭となります。平成23年6月期末の配当予想につきましては、当該株式分割後の数値で記載しております。

3. 平成23年6月期の業績予想(平成22年7月1日～平成23年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,270	41.3	748	37.0	747	37.4	427	30.0	96.88

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

上記の1株当たり当期純利益については、平成23年3月31日時点の発行済株式総数(4,409,793株)を使用して算定しております。

4. その他（詳細は、【添付資料】5ページ「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年6月期3Q	4,409,793株	22年6月期	1,460,000株
② 期末自己株式数	23年6月期3Q	228株	22年6月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年6月期3Q	4,392,161株	22年6月期3Q	1,260,000株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

2. 当社は、平成22年12月31日を基準日として、平成23年1月1日付で1:3の株式分割を行っております。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	5
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
3. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期におけるわが国経済は、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、企業収益は改善し、個人消費は持ち直しの動きがみられ、景気は持ち直してきておりました。しかしながら、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、その後は弱い動きとなりました。

モバイルビジネスを取り巻く環境につきましては、平成23年3月31日現在における携帯電話の累計契約数は約1億1,953万件、うち第3世代携帯電話（注1）の契約数は約1億1,829万件となっており、全体の約99%を占めております（社団法人電気通信事業者協会調べ）。

このような環境の下、当社は、「恋人ゲーム」シリーズ及び30才前後の大人女性向け新シリーズ「恋も!仕事も!」シリーズに経営資源を集中し、コンテンツの付加価値を高めると同時に、収益源の多様化を図っております。

モバイルコンテンツ事業においては、キャリア公式サイト以外にソーシャルアプリ（注2）及びスマートフォン（注3）向けアプリを投入しております。また、モバイルコマース事業、及びその他の事業においては、「恋人ゲーム」シリーズを基にした商品の開発・販売を行っております。

なお、東日本大震災による業績への影響につきましては、地震発生の直後は、当社ゲームの利用がやや減少したものの、その後は持ち直し、現時点におきまして、大きな影響は見られません。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は4,632,321千円（前年同期比40.4%増）、営業利益は687,964千円（前年同期比50.2%増）、経常利益は684,110千円（前年同期比49.9%増）、四半期純利益は400,033千円（前年同期比44.3%増）となりました。

（注）1. 第3世代携帯電話：ITC（国際電気通信連合）によって定められた「IMT-2000」標準に準拠した通信システムによって、高速なデータ通信、テレビ電話等のマルチメディアを利用したサービスの可能な携帯電話であります。

2. ソーシャルアプリ：SNS（ソーシャルネットワーキングサービスの略で、インターネット上で社会的ネットワークを構築するコミュニティ型の会員サービス）等をプラットフォームとし、ユーザー同士の繋がりや交流関係を機能に活かしたWebアプリケーションです。

3. スマートフォン：コンピュータを内蔵し、音声通話以外に様々なデータ処理機能を持った携帯電話で、アプリケーションを追加して、機能の強化やカスタマイズができるものです。

事業別の概況は以下の通りであります。

（モバイルコンテンツ事業）

モバイルコンテンツ事業におきましては、30才前後の大人層へ向けたコンテンツ制作と集客、及びソーシャルアプリやスマートフォン向けアプリ等のプラットフォームの拡張を図っております。

当第3四半期累計期間の施策といたしましては、新規コンテンツとして、キャリア公式サイトを7タイトル、「恋も!仕事も!」シリーズ1タイトルを含むソーシャルアプリを8タイトル、及びスマートフォン向けアプリの有料版を2タイトル立ち上げるとともに、大型モバイル広告の積極出稿を行いました。また、当第3四半期の施策としましては、ソーシャルアプリにおいて、配信プラットフォームの拡張と月額課金コースの導入を行いました。

この結果、当第3四半期累計期間末における、当社が運営するキャリアの公式サイト数は72タイトル、ソーシャルアプリ数は9タイトル、スマートフォン向けアプリ（有料版）数は2タイトル、当第3四半期累計期間の売上高は4,407,309千円となりました。

(モバイルコマース事業)

モバイルコマース事業におきましては、「恋人ゲーム」シリーズのキャラクター等を活用したコンテンツオリジナルグッズの開発・販売に注力しております。

当第3四半期累計期間の施策といたしましては、コンテンツオリジナルグッズを131アイテム販売開始し、「恋人ゲーム」シリーズの新規サイト内ショッピングコーナーの開設を7サイトにおいて実施いたしました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は201,746千円となりました。

(その他の事業)

その他の事業におきましては、パッケージ事業の収益が計上されております。

パッケージ事業の当第3四半期累計期間の施策といたしましては、ドラマCD5タイトルをリリースいたしました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は23,264千円となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末と比較して580,955千円増加し、2,863,973千円となりました。その主な要因は売掛金の増加439,229千円があったことによるものであります。

負債は前事業年度末と比較して193,212千円増加し、989,923千円となりました。その主な要因は未払費用の増加169,042千円があったことによるものであります。

純資産は前事業年度末と比較して387,742千円増加し、1,874,050千円となりました。その主な要因は利益剰余金の増加378,005千円によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末と比較して37,753千円増加し、933,951千円となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、主にモバイルコンテンツ事業のソーシャルアプリの売上増加に伴う売上債権の増加439,229千円及び法人税等の支払額282,857千円による資金の支出があったものの、税引前四半期純利益677,724千円、減価償却費21,760千円及びソフトウェア償却費29,576千円の計上並びに未払費用の増加169,042千円があったこと等により、226,921千円の資金を得る結果（前年同期は293,566千円の資金を得る結果）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、PCやサーバー等の有形固定資産の取得による支出19,363千円、モバイルコンテンツ事業のコンテンツシステム開発等に伴う無形固定資産の取得による支出64,192千円及び敷金の差入による支出33,419千円により、116,975千円の資金を支出する結果（前年同期は99,074千円の資金を支出する結果）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出61,129千円及び配当金の支払額20,800千円があったこと等により、72,192千円の資金を支出する結果（前年同期は81,927千円の資金を支出する結果）となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

当社を取り巻くモバイルビジネス環境は、モバイルコンテンツ市場において、フィーチャーフォンのキャリア公式サイト市場が緩やかに縮小するものの、ソーシャルアプリ市場は当面、高い成長が持続すると見込んでおります。また、携帯電話端末市場において、従来型のフィーチャーフォン端末からスマートフォン端末への移行も引続き進行する見通しであります。

このような環境変化の下、当社は、当面「恋人ゲーム」シリーズ及び「恋も!仕事も!」シリーズに経営資源を集中し、コンテンツの付加価値を高めると同時に、収益源の多様化を図ること
で、当社事業全体の収益向上を目指しております。

当第4四半期においては、来期以降の一段の収益向上のため、従来の会社計画に追加して、いくつかの取り組みを行います。具体的には、好調のソーシャルアプリのゲーム構造のさらなる進化、北米市場向け英語版スマートフォンアプリの開発、テレビCMの全国展開による積極的な集客などです。これらの取り組みが収益化するのには主に来期以降となりますが、当第4四半期における投資は、当第3四半期までの利益を基に行う予定です。

従いまして、当事業年度における通期の売上高は、概ね業績予想の通りとなる見込みであります。また、通期の営業利益、経常利益、当期純利益も、概ね業績予想の通りとなる見込みであります。

以上により、当事業年度の業績予想は、平成23年1月18日公表時から変更なく、売上高6,270百万円（前事業年度比41.3%増）、営業利益748百万円（前事業年度比37.0%増）、経常利益747百万円（前事業年度比37.4%増）、当期純利益427百万円（前事業年度比30.0%増）を見込んでおります。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

資産除去債務に関する会計基準等の適用

当第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益が2,262千円、税引前四半期純利益が8,218千円減少しております。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成23年3月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	933,951	896,198
売掛金	1,506,140	1,066,911
商品及び製品	24,600	12,976
前払費用	29,429	22,926
繰延税金資産	55,740	25,981
その他	100	201
貸倒引当金	△10,611	△10,636
流動資産合計	2,539,350	2,014,558
固定資産		
有形固定資産		
建物	32,108	31,368
減価償却累計額	△25,983	△21,717
建物（純額）	6,125	9,650
工具、器具及び備品	148,927	140,222
減価償却累計額	△115,204	△103,940
工具、器具及び備品（純額）	33,722	36,281
有形固定資産合計	39,847	45,932
無形固定資産		
ソフトウェア	88,225	52,965
無形固定資産合計	88,225	52,965
投資その他の資産		
繰延税金資産	19,552	17,764
敷金	176,998	151,797
投資その他の資産合計	196,550	169,561
固定資産合計	324,623	268,459
資産合計	2,863,973	2,283,018

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成23年3月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	93,964	65,199
1年内返済予定の長期借入金	40,886	72,648
未払金	1,846	4,436
未払費用	555,056	386,014
未払法人税等	196,195	172,684
賞与引当金	45,712	—
その他	41,519	51,620
流動負債合計	975,182	752,602
固定負債		
長期借入金	14,741	44,108
固定負債合計	14,741	44,108
負債合計	989,923	796,710
純資産の部		
株主資本		
資本金	414,566	409,600
資本剰余金	380,166	375,200
利益剰余金	1,079,513	701,507
自己株式	△196	—
株主資本合計	1,874,050	1,486,307
純資産合計	1,874,050	1,486,307
負債純資産合計	2,863,973	2,283,018

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成22年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成23年3月31日)
売上高	3,299,487	4,632,321
売上原価	796,559	1,017,204
売上総利益	2,502,927	3,615,116
販売費及び一般管理費	2,044,742	2,927,152
営業利益	458,184	687,964
営業外収益		
受取利息	168	259
その他	674	48
営業外収益合計	842	308
営業外費用		
支払利息	2,682	1,162
寄付金	—	3,000
営業外費用合計	2,682	4,162
経常利益	456,345	684,110
特別利益		
貸倒引当金戻入額	12,150	24
特別利益合計	12,150	24
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	5,955
固定資産除却損	136	455
特別損失合計	136	6,411
税引前四半期純利益	468,359	677,724
法人税、住民税及び事業税	212,547	309,237
法人税等調整額	△21,408	△31,547
法人税等合計	191,138	277,690
四半期純利益	277,220	400,033

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成22年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成23年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	468,359	677,724
減価償却費	21,453	21,760
ソフトウェア償却費	26,803	29,576
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	5,955
賞与引当金の増減額 (△は減少)	34,284	45,712
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△12,306	△24
固定資産除却損	136	455
受取利息及び受取配当金	△168	△259
支払利息	2,682	1,162
売上債権の増減額 (△は増加)	△164,686	△439,229
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△445	△11,623
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,137	28,765
未払消費税等の増減額 (△は減少)	10,839	△1,964
未払費用の増減額 (△は減少)	73,998	169,042
その他	△10,098	△16,372
小計	452,989	510,681
利息及び配当金の受取額	168	259
利息の支払額	△2,682	△1,162
法人税等の支払額	△156,908	△282,857
営業活動によるキャッシュ・フロー	293,566	226,921
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△25,868	△19,363
無形固定資産の取得による支出	△24,867	△64,192
敷金の差入による支出	△48,298	△33,419
その他の支出	△40	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△99,074	△116,975
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△81,927	△61,129
株式の発行による収入	—	9,933
自己株式の取得による支出	—	△196
配当金の支払額	—	△20,800
財務活動によるキャッシュ・フロー	△81,927	△72,192
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	112,564	37,753
現金及び現金同等物の期首残高	274,731	896,198
現金及び現金同等物の四半期末残高	387,295	933,951

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。